

特集

組織もひとつに 心もひとつに

生活クラブ虹の街全デポーがW. Coの運営になりました！

これからの事業にワクワクしています

W. Co樹 代表理事 亀本正美

今年3月に、生活クラブ虹の街の全8デポーがひとつのW. Coとなり、企業組合W. Co樹が誕生し、各地域にデポーの運営委託業務を中心とした事業を開始しました。それから半年が経過した現在の各 brunchの様子や組織運営について、代表理事の亀本正美さんに聞きました。



生活クラブ虹の街デポーは、W. Co樹が立ち上がるまでは、その業務を生活クラブ虹の街の契約職員（直接雇用）とW. Coという、二つの働き方を有しながら、紆余曲折がありながらも生活クラブ運動に共感する仲間を増やし、生活クラブ虹の街の活動と事業を支え続けてきました。

二つの働き方と、8つの事業所のワーカーズ全体が、自ら出資し、経営を考え、働き手となるW. Coの働き方と組織に統一したことで、最近では自分たちで決めて実行することの楽しさを感じ始めていたり、若い人たちの思いやることができるようになった、という喜びの声も聞こえてくるようになってきました。組織改編に際し、2割程が退職しましたが、ほとんどの人が『デポーが好き、この仕事に誇りを持っている』ということから継続し、現在160人の組織になっています。専任理事2人、理事8人を8デポーの店長に、そして、各 brunchではワークマネジャー、物流マネジャー、コミュニティーマネジャーと役割分担を決め、会議も理事会、経営会議、マネジャー

生活クラブのデポー

「デポー=Depot」とは、フランス語で、「倉庫、荷捌き所」を意味するところから使われた言葉です。消費材を販売・購入する単なる店舗機能ではなく、組合員が生活に必要な安心安全な材を皆で分け合う場、必要なサービスや機能を作り出すコミュニティーの場でもあります。千葉県内では約30年前に千葉市美浜区真砂に地域自治の拠点として第1号真砂デポーが誕生し、現在では県内各地に8つのデポーがあります。

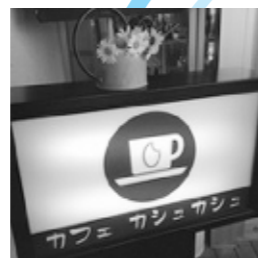
会議、 brunch会議を設置した組織運営を行っています。

私自身、現場しか知らなかったのが、組織運営、会議運営が大変です。しかし、半年での成功事例もあり、これからの事業にワクワクしています。

成功事例とは、8月から「〇〇の日」を設定するなど、W. Co樹の独自企画で前年比120%に供給高が上がったことです。全デポー統一して、値引きをしない、もうひとつ買い運動を行いました。消費材の並べ方を写真メールで虹の街ホームページに載せたり、他のデポーに配信してお互いに切磋琢磨。発注忘れを他のデポーで補う、声を掛け合う、などの実行が功を奏したと考えています。

これからは、デポー業務以外の喫茶部門「カシュカシュ」、惣菜部門「ポナベティ」「グラッセ」、そして移動販売部門が、デポー部門と連携して自立した事業となるようにしていきたいと思っています。地域になくはない事業になっていくようにしたいと、考えています。

(聞き取り 広報部)



デポー園生にあるカフェ カシュカシュ



お待ちしています！（デポー園生）



店内の飾りが季節感をよびます（デポー新松戸）



震災の時に休まず開所！（デポー浦安）

新しい発見や共感

W. Co樹 みつわ台 brunch 高橋律子

新しい組織となって、私は「自主管理運営ルール策定プロジェクト」のメンバーになりました。月1回の会議では、全デポーの代表ワーカーズと直接顔を合わせて話し合うことができ、とても刺激になります。新しい発見や共感し合うことが、新しい組織には大事だと思っています。「魚介」を担当していますが、7月に行われた水産政策研修では、各デポーの担当者で日頃疑問に思っていることや、意見を交換し合いました。時間が短く、もう少しいろいろなことを話し合いたかったと感じました。



各デポーの良いところを取り入れ、お互いに刺激し合える関係を続けていくことが、これからのワーカーズ樹の発展につながると思っています。

信頼感と思いやり

W. Co樹 大津ヶ丘 brunch 山崎久子

ワーカーズになって生まれた信頼感と思いやりができたのは、夏ギフトの利用呼びかけ、バースデーイベントを終えた7月頃からです。時には不安、愚痴が出ながらも、皆の声に明るさが、また組合員の中には、「デポーの感じが変わったね」と一緒に笑いながら話す方もいます。店長、マネージャーを中心に、目標意識が高まり、1人でも多くの組合員に笑顔で対応し、また来たいデポーを目指しています。



デポー大津ヶ丘では同じ苦勞を共有できるようになったことで、他の部門リーダーである私の責任意識も高まり、それを見守ってくれる仲間と共に進みながら、これからも様々な壁を乗り越えていきたいと思っています。

デポーを居心地のいい空間に！

生活クラブ虹の街松戸ブロック運営委員 細川るみ子



私は、昨年の春に、支部活動をしていた友人に支部企画の料理教室に誘われたのがきっかけで、組合員になりました。買い物先のスーパーが1軒増えるか、という軽い気持ちで加入しました。

その後、ワーク活動※も料理教室も楽しんでいたところ、4月からブロック運営委員をすることになりました。私にできるのかなという不安はありましたが、デポーのワーカーズもW. Coという新体制になったこともあり、一緒に悩み、考え、協力し合い頑張っています。

現在はカタログ社会、ネット社会で、人々はコミュニケーションをとらずして生活が成り立つようになってきたと感じています。でも、本当はみんな人とふれあいたいのだと思います。デポーは、生の声や、生の表情にふれあえる場所なのだと思います。私の親ほどの年齢の組合員さんと、お互いに手を握り合いながら会話する時には、私もホッと安心します。お年寄りから小さいお子さんまで、みんなが楽しく、居心地いい空間をこれからも目指します。

※ワーク活動…生活クラブ虹の街のワーク参加システムへの参加活動。ワーク参加システムは組合員が主体的に参加するデポー運営を支えるシステムで野菜の袋詰めや棚の整理などの作業に組合員が参加する仕組み。